

令和5年度 小平市立小平第二小学校 学校評価報告書									
学校教育目標		日本国憲法、教育基本法の精神及び人間尊重の精神を基盤に、そして小平市教育振興基本計画の理念を基本に、国際社会に貢献できる日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環と捉え、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。 考える子 やりぬく子 ◎思いやりのある子							
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】		「学校・地域・家庭が互いに育て合い、子ども一人ひとりが輝く楽しい学校」							
【目指す児童・生徒像】		1. 自分の考えをもち、判断し、行動できる子 2. 元気でたくましく、最後まで頑張る子 3. 相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子							
【目指す教員像】		1. 全体の奉仕者として自己の使命を自覚する 2. 専門職、教育のプロとして研究と修養に努める 3. 組織的な対応を意識して職務に励む 4. 健康保持や自己の働き方に留意する							
前年度までの学校経営上の成果と課題									
・成果:特別支援部を中心に交流・共同活動等の特別支援教育の充実や組織的に特別支援を必要とする児童に適切な支援につなげることができた。CSを中心に地域・保護者が一体となって各プロジェクト取組を推進することができた。 ・課題:学習者用端末を各教科の授業や家庭学習で効果的に活用できるようにする。さらに情報モラル教育を進め、子どもたちが、より安全に有効に活用できる環境作りに取り組む。本校が初任及び2校目の若手教員の指導力・授業力の向上に取り組む。									
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策	
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標			
学習指導	・朝学習や夏季休業中に補習授業を実施し、個のつまずきに応じた指導をする。併せて学習者用端末を活用して家庭学習の充実を図る。 ・全国学力学習状況調査等の結果を生かしながら、授業改善プランを作成し、授業改善を図る。	3	3	・児童の学習状況に合わせて朝学習や家庭学習、夏季休業中に補習教室を実施してきた。学習者用端末を活用した家庭学習については、各学年の実態に合わせて活用を推進する。 ・全国学力学習状況調査結果や算数ベネッセドリルの診断テスト結果を分析し、各学年児童の実態を把握し、授業改善プラン作成した。授業改善プランに沿って取組を推進する。	3	3	・基礎学力の定着にはいま一步、課題である。 ・単元の狙いがわかると家で宿題を教えるようになると思う。 ・ICTの実践を共有するという意味では今年の研究のやり方はよかった。 ・ICTを使った授業の実践報告がもつと多くあるとよかった。 ・マイシードの方の話を聞く機会があったのがよかった。	・児童の学習状況に合わせて朝学習や家庭学習、夏季休業中に補習教室を実施した。長期休業中に全学年、学習者用端末を使用して家庭学習に取り組むことができた。次年度は、学年の実態に合わせて、日々の家庭学習で活用できるように推進する。 ・全国学力学習状況調査、東京都学力調査や算数ベネッセドリルの診断テスト結果を分析し、各学年児童の実態を把握し、授業改善プラン作成し授業改善に取り組むことができた。次年度は、各児童の学習状況に合わせて朝学習や家庭学習が効果的にできるように取組の改善に努める。	
	・全教科で話型や系統表、にこにこことばの宝箱等を活用し言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の基盤になる言語能力の育成を図る。 ・学習者用端末・ミニホワイトボード・国語辞典等を積極的に活用する。	3	3	・各学級で話型、にこにこことばの宝箱等を活用し言語活動に取り組むことができた。2学期以降も確実に取り組めるように声掛けをする。 ・校内研究で、授業での学習者用端末の効果的な活用について取り組んだ結果、学習者用端末や授業支援システムを活用した授業実践が多く見られた。引き続き、研究推進部と連携し、学習者用端末の授業や家庭での効果的な活用について情報共有を図り取組の推進に努める。	3	3		・話型、にこにこことばの宝箱等を活用した言語活動の取組について各学級によって差が見られた。次年度以降、各学年の実態に合わせて話型を見直しを図り、全校で共通理解を図り取組を推進する。 ・校内研究で、学習者用端末の効果的な活用について取り組んだ結果、教員の学習者用端末や授業支援システムを活用した授業実践が増加した。次年度に向けて、学校全体で、授業での学習者用端末の効果的な実践事例をまとめ、取り組めるようにする。	
安全教育	・毎月の安全指導日に「安全教育プログラム」を活用した指導やセーフティ教室、交通安全教室等の講師を招請しての体験型指導の充実を図る。 ・「SNS東京ノート」、「二小SNSルール」を活用し、児童の実態に合わせた情報モラル教育に取り組む。	3	3	・毎月の安全指導で「安全教育プログラム」を活用して計画的に実施できた。 ・生活夕会で、「安全教育プログラム」等を活用して教職員研修に取り組み、理解向上に努めている。 ・「SNS東京ノート」、「二小SNSルール」等を活用し、児童の実態に合わせた情報モラル教育を、年間指導計画を基にしながら、セーフティ教室や長期休業前に実施できた。	3	4	・命の安全教育など教科以外のOJTがあったのがよかった。 ・学習者用端末の扱い方について、児童に指導を徹底する。 ・休み時間等の学習者用端末と使い方が徹底されていないことがある。 ・保護者も含めて情報モラルについては話をしていきたい。 ・低学年の持ち帰り荷物がものすごく重い時があるので、保護者に持ち帰らせるなどの対応にしていほしい。	・生活夕会で「安全教育プログラム」を活用して、研修に取り組む理解向上に努めた。毎月の安全指導では、生活安全・交通安全・災害安全の内容を各学年の発達段階に応じて系統的に指導することができた。次年度も発達段階に合わせて指導内容を見直し効果的に指導できるようにする。 ・情報モラル教育の年間指導計画に基づいて、長期休業前は全学年が「SNS東京ノート」を活用して理解を深めたり、学習者用端末使用ルールを全校で共通理解を図ったりするなど取り組むことができた。次年度に向けて二小SNSルールや学習者用端末使用ルールの見直し、指導の徹底に努める。	
	・「防災ノート」を計画的に活用する。 ・教室移動等全ての教育活動を行う場に防災頭巾を持ち込み児童の防災意識の向上を図る。 ・全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。	3	3	・毎月の安全指導や避難訓練を計画的に取り組むことができた。各学年の実態に合わせて防災ノートの活用を推進する必要がある。 ・教室移動等全ての教育活動を行う場に防災頭巾を持ち込みを行うことができた。 ・年度当初に、全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」について内容を確認し、非常事態に備え意識を高めた。引き続き、「二小危機対応管理マニュアル」を活用した研修実施意識の向上を図る。	3	3		・避難訓練を地震・火災・不審者対応、予告なしでの訓練等、内容や避難の方法を工夫しながら、実践的に行うことができた。次年度に向けて訓練内容に合わせて防災ノートを効果的に活用できるような指導計画を見直し実践できるようにする。 ・教室移動等全ての教育活動を行う場に防災頭巾を持ち込みを行うことができた。 ・教職員に「二小危機管理マニュアル」を配布し、職員夕会等で随時、緊急時に自身が果たす役割と責任を確認し理解に努めることができた。	
いじめ防止	・道徳授業では、「考え、議論する道徳授業」を確実に実践する。異年齢集団や若草学級との交流・共同活動、副籍交流を計画的に実施し、取組の充実を図る。	3	3	・特別支援部を中心に通常学級と若草学級の共同学習や副籍交流を計画的に進めることができた。引き続き、児童にとってよりよい交流になるように担当と連携して推進に努める。保護者会やHP等を活用し保護者の理解を広められるようにする。	3	3	・研修等での受け身の姿勢ではなく、教員自身でいじめ防止基本方針等を読み込む意識の变革が必要である。 ・いじめゼロ宣言の各クラスの目標として具体的な目標を提示し、振り返りがしやすいようにする。 ・いじめゼロ宣言が代表委員会だけでなく、他の委員会でも話し合われたことがよかった。 ・若草学級との交流に関して、少し強く意識できる年間計画があるとよい。	・道徳教育推進教員を中心にこれまでの校内研究の成果を生かしながら授業改善に取り組むことができた。4年振りに地域・保護者向けの道徳授業地区公開講座を開催し、本校の取組を周知できた。 ・特別支援コーディネーターを中心に通常学級と若草学級の共同学習や副籍交流を計画的に進めることができた。引き続き、保護者会やHP、便り等を活用し保護者理解に努める。	
	・各学級で「いじめゼロサミット」で採択した合言葉を受けた目標を掲げ、いじめ未然防止の取組を推進する。 ・いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事象が発生した際は即時開催し組織的に迅速に対応する。	3	3	・各学級で「いじめゼロ」の目標を作成し取組を推進している。適宜、目標に対する振り返りをし、取組を推進する。 ・月ごとにいじめの実態を調査し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいる。いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事象が発生した際は即時開催し、解決に努めている。	4	4		・各学級で「いじめゼロ」に向けて目標を掲げ、いじめ未然防止の取組を推進し、児童の意識を高めることができた。次年度も引き続き実施し、児童の意識向上に努める。 ・生活夕会で「いじめ総合対策」等を活用して、いじめ重大事態の確認、いじめ未然防止等の教職員研修に取り組むことができた。次年度に向けて二小のいじめ防止基本方針の見直しを行い、学校全体で共通理解を図る。いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事象が発生した際は即時開催し、解決に努めることができた。	
特色ある学校づくり	・特別支援部が中心に通常学級・若草学級・きこえことば教室・くすのき教室との連携を図るために互いの取組を把握し、情報を共有する。 ・計画的に校内委員会を開催し、特別支援教職員、医療機関等関係機関との連携や、SC・SSW・巡回指導員との情報共有を図り対応する。	3	3	・特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に取り組むことができた。校内委員会や生活夕会等を通して、情報共有し、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの支援につなげることができた。	3	4	・特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に校内委員会や生活夕会等を通して、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげることができた。また子ども家庭支援センターなどの関係機関等とも連携して、支援が必要な児童や不登校傾向の児童の対応を進めることができた。支援を必要とする児童が増加傾向にあるので、校内支援体制の強化を検討する必要がある。 ・次年度も、特別支援学級設置校、聴覚・言語障害指導通級学級拠点校、特別支援教室巡回校としての責任を自覚し、小平市の特別支援教育全体の推進に貢献していく。	・特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に校内委員会や生活夕会等を通して、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげることができた。また子ども家庭支援センターなどの関係機関等とも連携して、支援が必要な児童や不登校傾向の児童の対応を進めることができた。支援を必要とする児童が増加傾向にあるので、校内支援体制の強化を検討する必要がある。 ・次年度も、特別支援学級設置校、聴覚・言語障害指導通級学級拠点校、特別支援教室巡回校としての責任を自覚し、小平市の特別支援教育全体の推進に貢献していく。	
	・年間計画に沿って、学校経営協議会、避難所運営準備会、創立150周年行事委員会を開催する。 ・地域、保護者にHPやラジオ、CS便り、リーフレット等を活用して、CS会議の様子や各プロジェクトの理解を広め協同して取組を推進できるようにする。	3	3	・年間計画に沿って、各会議を開催できている。特に2学期は、創立150周年事業の実現に向けて創立150周年行事委員会の活動を重点に取組を推進する。 ・地域や保護者に創立150周年事業やCSの取組をHPやラジオ等を活用して周知できた。引き続き、より理解を広められるように情報発信に努める。	4	4	・創立150周年記念集会是、運営や企画、子どもの輝き等、全てにおいてとてもよかった。 ・創立150周年の年と今で、先生方の努力により児童の関係が今までも増して密になったと感じる。 ・配布のおたよりをすべてメール配信がネットでもみられるとうれしい。	・特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に校内委員会や生活夕会等を通して、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげることができた。また子ども家庭支援センターなどの関係機関等とも連携して、支援が必要な児童や不登校傾向の児童の対応を進めることができた。支援を必要とする児童が増加傾向にあるので、校内支援体制の強化を検討する必要がある。 ・次年度も、特別支援学級設置校、聴覚・言語障害指導通級学級拠点校、特別支援教室巡回校としての責任を自覚し、小平市の特別支援教育全体の推進に貢献していく。	
業務職改善の働き方	・学習者用端末やC4th校内掲示板や職員室メールを活用し会議時間短縮、校務軽減を推進する。 ・週に定時退勤日を設定し、週当たり在校時間は最大60時間とする。	3	3	・学習者用端末を使用して職員会議を行うことで会議時間短縮につながった。またC4th校内掲示板を活用することで、打ち合わせ等の回数を削減できている。 ・在校時間について個人差が大きい。それぞれが抱えている分掌の均等化や在校時間の長い職員には声掛けを続けている。	3	3	・月曜日と水曜日職員夕会なしがありがたい。これからもC4thで基本情報共有していくようにしたい。 ・それぞれのライフスタイルに合わせた休暇を取得しやすい環境であった。 ・校内掲示板をもっともう少し見るようにしてほしい。	・学習者用端末を活用して、職員会議を行うことで会議時間短縮することやC4th校内掲示板の活用で、打ち合わせ等の回数を削減することなど校務軽減を推進できた。随時、C4thを確認するよう声を掛け、習慣化を図る。 ・月の在校時間が長い教員に声掛けをしたり医療面談を実施したりした。教員の健康保持ため積極的な休暇取得を推進した。	
	・各部会・分掌組織の取組は、目標値を掲げるとより明確化する。 ・自己申告書に示した取組の進捗状況を把握し適宜改善を図る。	3	3	・各部会・分掌組織で目標値を掲げることで、計画的に取組を推進できている。 ・自己申告書に示した取組目標に向っての実践を随時、確認し達成できるように進捗管理する。	3	3		・各部会・分掌組織が、主任を中心に目標値について取組を評価し、課題について改善策を検討し、次年度の計画に生かすことができた。各部会・分掌の引き継ぎを実施できるように確認する。 ・自己申告書の取組目標を具体的にすることで、取組を随時、確認し達成できるように進捗管理することができた。個々の職責・職務に適した目標設定ができる教員が増えている。	